

令和2年度第6回青谷地域振興会議議事概要

日時：令和2年1月27日（水）午後2時30分～4時30分

会場：青谷町総合支所第2・3会議室

【出席委員】

高橋克己、長谷川英二、山本誠、平尾繁幸、久野幸太郎、奥谷吉男、長谷川和郎、浜江和恵、塩とみ子、松岡礼子、上田洋子、大石剛史

【事務局】

見生支所長、安達副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷分室長）、
關木産業建設課長、高野市民福祉課長、山口地域振興課長補佐、
教育委員会事務局中村次長 教育総務課校区審議室堀村主任
交通政策課湯谷課長

1. 開 会 14:30～

2. 会長挨拶

3. 議 題

（1）（共通議題）「鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針（素案）」に校区審議室から説明
【委員】適正規模の基準については、幅を持たせてあるということか。

【校区審議室】適正規模の基準の幅を持たせています。理想どおりの適正規模だけでみると、西2ブロック（気高、鹿野、青谷）で、中学校は一つとなりますが、地域生活拠点としてそれぞれ文化や歴史があり、通学のしやすさから3校でという考え方もありますし、生徒数や部活動等を考えたら1校が良いという考え方もありますので、幅を持たせています。

【委員】気高町の小学校統合は決定事項か。

【校区審議室】気高町につきましては、小学校統合の要望をいただき、昨年12月に教育委員会の方で、4校での新設統合決定いたしました。気高町は3月を目途に統合準備委員会を立ち上げる予定となっています。

【委員】義務教育学校にすれば、各町単位でずっと学校は存続していくことになるのか。

【校区審議室】義務教育学校は、小学校と中学校を1つの学校としていくものです。青谷町は小学校が1校、中学校が1校となっていますが、どこも統合せずに小学校、中学校もそれぞれ単独という方向を決定されましたらその方向でいいと思います。適正規模の観点からは、小学校は1学年2学級、中学校1学年3学級あってほしい、義務教育学校だったら、1学年1学級もありとう意味では、義務教育学校にしたら最後までなくなるという言い方あるかもしれませんが。しかし義務教育学校の場合でも、1学年1人とか2人となった場合は考えなければいけないと思います。

【委員】小規模小学校は、気高町だけではなく、それ以上に小規模な学校もある。中心街では、歩いて行ける範囲に小学校が点在している。平等という考え方を良く考えていただきたい。

【委員】気高町の小学校について、気高町の検討の中に、義務教育学校にするかどうかも含めて

検討だと聞いたが、小学校4校を1校に統合することで決定しているのか。

【校区審議室】気高町地域からの要望で、小学校4校を1校にすることは決まっていますが、小学校、中学校別々とするのか、義務教育学校にするのかについてはまだ議論されていません。義務教育学校の可能性も含めて3月に立ち上がる組織の中で検討していただきたいと思っています。

【委員】検討組織の立ち上げについて、青谷町も、20年後を見据えたときに、青谷町だけに残すのか、旧気高郡内で方向を考える時に、気高町が義務教育学校にすると、既に鹿野が義務教育学校になっているので、青谷町だけ取り残されることになり、気高町が考えられる時に、青谷町も鹿野町も一つの検討委員会の組織としてとして踏まえていった方がいいのか。

【校区審議室】気高町の場合、校区審議会の答申が出る以前から、小学校の統合の話が出ていました。気高町は、まず気高町だけの部分で検討をされて行かれますが、今後ブロックで組織を作ってブロック内の人が一番納得できるスタイルで合意を図っていきたいと思っています。

【委員】基本方針に、未来を担う子どもたちにとって平等で適切教育環境の実現とあるが、統合して1か所に集まった状態では、学習する機会は平等だと思うが、通学をする時の安全性、通学時間などの問題などがある。スクールバスなどの問題もあるので、整合性はどうかと思う。

【校区審議室】平等の考え方としては、子どもたちが出来る限り同じ環境で、教育を受けられることを考えております。学校の教育環境に加えて、友達も同じくらい周囲にいる、部活も同じように選択でき、通学時間も同じになることが理想ですが、特に通学が難しい問題となっています。行政として、少しでも通学の問題を埋め合わせしていきたいと思っています。友だちの数の平等で適正規模にこだわると、今度は通学距離が長くなるので、100%満足な状態にはできませんが、平等に近い状態を目指しています。

【委員】今の若い人が結婚して、子どもが出来た場合、学校や保育所に近いところに居住地を移し一極集中してしまう状態となっている。過疎化がすすみ、学校だけでなく集落が無くなって行くこと想定すべきである。地域づくりと合わせて真剣に論議してほしい。

【校区審議室】地域づくりと合わせて考えていきたいと思っています。

【司会者】地域振興会議でも、義務教育学校について勉強会を開く必要があると思います。

(2) 青谷地域の生活交通について、産業建設課關木課長から説明

【委員】青谷地域生活交通協議会の中で、生活交通の方向性について、朝晩の通学的手段と、昼間の地域の移動手段と別々に考え、朝晩の交通手段の確保は鳥取市が責任をもって対応し、それ以外の日中の生活交通の手段を検討していくこととなった。

【委員】青谷にタクシー会社はあるが、日置地区から青谷までタクシー料金が高いので、個人的に近所の方に送ってもらっている人がたくさんある。バス停まで10分以上かかるため、車の運転に自信はないが、何とか青谷まで運転したいので免許を返上したくてもできないという話をよく聞く。タクシーの事業も成立するような方法がないのかと思う。有償運送で電話等での予約をタクシーと組み合わせてはどうか。朝晩のスクールバス等の運転手が、日中はタクシーの運転をし

てもらおうようにはならないか、このあたりのことを組み合わせて、うまく回せる仕組みが出来ないかと思った。

【事務局】いろいろな手法について検討をしていきます。バスの運転手が空いた時間に共助交通の運転する、運行の管理をタクシー会社に担ってもらおう等について検討していきます、また、共助交通に関して、路線の検討や料金の決め方、費用の負担方法等など様々な方法がありますので、出来る限りより良いものになるように検討していきたいと思っています。

【委員】運転免許を返納して、バスの割引の恩恵を受けても、バス停まで遠く使い勝手が悪いので、金額は少なくなっても良いのでタクシーのチケットや、割引などにしてもらった方が使いやすいと思う。

【委員】1日に20便バスがある地域と、数便しかない地域では格差があるので、クーポンとか割引券を出すなら、鳥取市全市で一緒ではなく、地域の現状に合わせて地域別々に考えていただきたい。

【事務局】青谷地域ならではの課題を掘り起こし、地域の要望に沿いながらよりよいものを作っていくために、鳥取市本滞納生活交通会議とは別に、青谷町独自で生活交通協議会を設置していますので、今後協議をしていきます。

【交通政策課】地域ごとでの協議会の立ち上げは、昨年策定した生活交通創生ビジョンの肝の部分です。地域の声、地域の実情に合うように地域の協議会で話し合っていたいただき、施策に反映していきたいと思っています。

報告事項

J R 西日本による駅舎のシンプル化について、交通政策課長より説明。

【委員】山陰本線下り分で保線橋を渡らなで済むようなダイヤを組んでもらえれば利用しやすくなる。

【交通政策課】保線橋を渡らない運行については、機会をとらえて要望してまいります。

【委員】駅舎をシンプル化すると、職員がいなくなるのか。車椅子の方等が保線橋を渡る時に、手伝ってもらえるような体制も要望してほしい。

【交通政策課】シンプル化になれば、券売機を置くなどで無人が前提です。体の不自由な人に対する対応について、聞いて見たいと思います。

【委員】J R の協議として鳥取市の方針は決まっているのか。

【交通政策課】J R と鳥取市の協議として、J R による更新及び維持管理とする方針としています。

【委員】青谷駅の場合、反対側のホームに建物があるが、すべて撤去される可能性があるということか。

【交通政策課】撤去されます。J R に対しホーム上で待たないといけない実態は伝えたが、保線

橋で待つて下さいと言われ、取り上げてもらえませんでした。

【委員】保線橋がかなり傷んでいるが、直してもらえるのか。

【交通政策課】保線橋は、強靱化して、建て直すといわれています。

【委員】車椅子とかもスッと乗れるようなことまでやってもらえないか。

【交通政策課】いただいた意見としてJRに伝えます。

(その他)

1月22日開催の第6回青谷高等学校活性化を支援する会について地域振興課長補佐から説明。

その他、次回の青谷地域振興会議は、2月19日金曜日に開催します。